

7/8(金) 災害復興制度研究所主催

フォーラム「中国・四川と熊本をつなぐ
復興知の可能性」

関西学院大学災害復興制度研究所は、中国・四川大地震と熊本地震の被災地で研究・活動する日中の研究機関やNGOから講師を招き、講演会を開催する。巨大災害からの復興に向けて、東アジアの新たな協働のあり方を考える。

※一般参加可、無料、事前申し込み要

■日時: 2016年7月8日(金)15時10分～18時

■場所: 西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館ホール
<プログラム>

■基調講演: 「ローカルな知を活かした避難用施設の建設に向けて—モンゴルのゲルを活用した避難用公園建設の可能性」

色音(中国社会科学院民族学与人類学研究所教授)

■特別報告①: 「伝統木造住宅の再建による地域復興～四川地震・被災地での取り組み」

吉椿雅道(CODE海外災害援助市民センター事務局長)

■特別報告②: 「発災直後でも暮らしに“仮”はない～熊本地震から学ぶ～」村井雅清(被災地NGO協働センター顧問)

■総合討論: (討論者)

岡田憲夫(関西学院大学災害復興制度研究所顧問)

金菱清(東北学院大学教養学部地域構想学科教授)

■申し込み・問い合わせ先: 関西学院大学災害復興制度研究所(TEL:0798・54・6996)

本日夜(7/1)、学生らが出発
熊本地震の被災地のボランティア活動に

関西学院大学ヒューマン・サービス支援室は7月1日～4日、「第1回 熊本地震現地ボランティア」を派遣する。23名の学生・教職員が大阪南港を出発し、被害の大きい益城町を中心に、避難所での引越しの手伝いをはじめ、足湯の設置など、被災者に寄り添った活動を予定している。今後も継続的に派遣予定で、長年培ってきた学生による現地ボランティアの経験やノウハウを熊本の被災地でも生かしていく。

7/31(日) 高校生対象
「ひらめき☆ときめきサイエンス」
申し込み7/13(水)まで

関西学院大学理工学部は理科や実験が好きな高校生を対象にしたイベント「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」(独立行政法人日本学術振興会事業)を開催する。

イベントでは理工学部教員が最新の施設を備えた研究室や実験室で講義するほか、科学の面白さを実際に体験してもらうために、環境にやさしい二次電池を有機ポリマーを用いて作ったり、数学で社会の問題を解き明かしたり、脳の電気信号を解読したりする体験プログラムがある。

大学生・大学院生が学生生活について紹介するコーナーもある。神戸三田キャンパス(理工学部・総合政策学部)では同日、オープンキャンパスも開かれる。

【体験プログラム】

- ・環境にやさしい次世代二次電池を作ろう！(定員20名)
- ・数学でわかる自然と社会:年代測定、人口増加、振り子の同期(定員40名)
- ・脳の電気信号を解読して、ネコが見ているものを当てよう(定員20名)



■日時: 7月31日(日)10時～16時

■場所: 神戸三田キャンパスVII号館

■対象: 高校生(高校教員の参加も可)

■申し込み締め切り: 7月13日(水)までに、FAX・郵送・E-mailのいずれかで申し込む。申し込み方法は下記URLで確認できる(<http://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja>)。応募多数の場合は希望に添えない場合もある。

■問い合わせ先:

理工学部事務室(TEL:079・565・8300)

本資料に関する報道関係者からの問い合わせは関西学院広報室(TEL:0798・54・6017)までお願いします。